

厚生労働大臣 殿

学校法人 帝 京 大
理事長 沖 永 佳

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	122人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療の提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	309	6.2	315.2	看護業務補助	38	診療エックス線技師	
歯科医師	6	0	6	理学療法士	16	臨床検査技師	64
薬剤師	38	0	38	作業療法士	7	衛生検査技師	
保健師				視能訓練士	9	その他	
助産師	33		33	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看護師	646	6.1	652.1	臨床工学技士	13	医療社会事業従事者	3
准看護師	12	0.6	12.6	栄養士	17	その他の技術員	9
歯科衛生士	4	0	4	歯科技工士	1	事務職員	211
管理栄養士	8	0	8	診療放射線技師	46	その他の職員	57

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	984.7	5.5	990.2
1日当たり平均外来患者数	1,882.5	40.7	1,923.2
1日当たり平均調剤数	1,066.6		

- (注) 1 「歯科等」の欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承諾の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	8人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	0人
・神経変性疾患DNA診断	有・無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・無	0人
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	0人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・家庭性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	0人
・活性化血小板の検出	有・無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	<input type="radio"/> 有・無	0人
超音波骨折治療法	<input type="radio"/> 有・無	0人
眼底三次元画像解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	104 人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	9 人
・多発性硬化症	18 人	・ウェゲナー肉芽腫症	3 人
・重症筋無力症	39 人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	11 人
・全身性エリテマトーデス	106 人	・多系統萎縮症	6 人
・スモン	0 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人
・再生不良性貧血	17 人	・膿疱性乾癬	3 人
・サルコイドーシス	21 人	・広範脊柱管狭窄症	2 人
・筋萎縮性側索硬化症	17 人	・原発性胆汁性肝硬変	11 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	53 人	・重症急性膵炎	4 人
・特発性血小板減少性紫斑病	40 人	・特発性大腿骨頭壊死症	26 人
・結節性動脈周囲炎	10 人	・混合性結合組織病	5 人
・潰瘍性大腸炎	40 人	・原発性免疫不全症候群	1 人
・大動脈炎症候群	2 人	・特発性間質性肺炎	3 人
・ピュルガー病	6 人	・網膜色素変性症	19 人
・天疱瘡	3 人	・プリオン病	1 人
・脊髄小脳変性症	7 人	・原発性肺高血圧症	2 人
・クローン病	25 人	・神経繊維腫症	12 人
・難治性肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・悪性関節リウマチ	7 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・パーキンソン病関連疾患	64 人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0 人
・アミロイドーシス	2 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0 人
・後縦靭帯骨化症	14 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・ハンチントン病	1 人		人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖検の状況	剖検症例数 49 例 剖検率 8.3 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価実績

1.研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療法の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究	大田 健	内科	¥67,502,000	補委 厚生労働省
ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究	大田 健	内科	¥2,000,000	補委 厚生労働省
アレルギー疾患の治療反応性予測因子の確立及びテーラーメイド治療法の確立に関する研究	大田 健	内科	¥3,400,000	補委 厚生労働省
呼気凝縮液を用いた気管支喘息の気道炎症評価法の確立と臨床応用に関する研究	大田 健	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
成人喘息の寛解を目指した治療薬の減量・中止に関する研究	大田 健	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
気管支喘息難治・重症化の病因・病態の解明に関する研究	大田 健	内科	¥1,400,000	補委 厚生労働省
特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究	大田 健	内科	¥800,000	補委 厚生労働省
びまん性肺疾患調査研究	大田 健	内科	¥400,000	補委 厚生労働省
大気汚染と感染の閉塞性呼吸器疾患への関与一喘息の病態における影響と発現機構	大田 健	内科	¥3,100,000	補委 (財)道路環境研究所
大気汚染による健康影響に関する総合的研究「成人気管支ぜん息患者の重症度等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究(②)」	大田 健	内科	¥16,922,453	補委 (独行)環境再生保全機構
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	滝川 一	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
膠原病に伴う中枢神経障害(ループス精神病)への既存治療法の評価・対策	廣畑 俊成	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
関節リウマチ・骨粗鬆症の重症化防止治療開発研究	廣畑 俊成	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
気道感染によるアレルギー性炎症増悪機構の解明	長瀬 洋之	内科	¥1,300,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
核内レセプターPPARを介して脂質がアレルギー性炎症に与える役割と機序の解明	植木 重治	内科	¥1,700,000	補委 文部科学省
身体不定愁訴とストレスマネジメントに関する日米共同研究の企画	中尾 睦宏	心療内科	¥3,400,000	補委 文部科学省
ニコチン依存の形成や持続に影響を与える身体・心理・行動学的要因に関する定量的評価	中尾 睦宏	心療内科	¥2,000,000	補委 喫煙科学財団
身体症状から見た自殺予防のアプローチ	中尾 睦宏	心療内科	¥40,000	補委 日本衛生学会
過重労働と多様化する雇用形態が労働者の健康に及ぼす影響に関する研究	中尾 睦宏	心療内科	¥4,000,000	補委 文部科学省
先天性筋ジストロフィーの分子発病機序の解析と治療法開発	清水 輝夫	神経内科	¥3,500,000	補委 文部科学省
筋ジストロフィーおよびその関連する疾患の病態生理の解明と治療薬物の開発に関する研究	清水 輝夫	神経内科	¥75,000,000	補委 国立精神・神経センター
先天性筋ジストロフィーにおける脱髄性ニューロパチー:分子発病機序の解明と治療法の開発	松村 喜一郎	神経内科	¥550,000	補委 国立精神・神経センター
筋強直性ジストロフィーの病態解明とRNAを介した治療	清水 輝夫	神経内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
福山型先天性筋ジストロフィーと類縁疾患の分子発病機序の解析と治療法の開発	清水 輝夫	神経内科	¥11,000,000	補委 文部科学省
先天性筋ジストロフィーの病態解析ージストログリカンの細胞内外の分子架橋の検討ー	斉藤 史明	神経内科	¥1,700,000	補委 文部科学省
急性胆管炎、急性胆嚢炎、急性膵炎診療ガイドラインの効果的な普及に向けた使用后調査ならびに臨床研究:一般国民のEBMIに対する理解の促進とガイドラインの適正な普及・推進	高田 忠敬	外科	¥8,500,000	補委 厚生労働省
膵癌に対する炭素イオン線治療の第I/II相臨床試験	高田 忠敬	外科	¥150,000	(独行)放射線医学総合研究所 重粒子医科学センタ
肺線癌の診断および悪性腫瘍度予測のためのAcetate-PETの臨床応用研究	高浪 巖	外科	¥1,100,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
DNAマイクロアレイを用いた直腸癌放射線(化学)療法の個別化治療の確立	渡辺 聡明	外科	¥7,000,000	補委 文部科学省
粘膜免疫により誘導される特異的免疫制御T細胞の詳細な分画の特定と誘導機序の解析	新見 正則	外科	¥1,600,000	補委 文部科学省
血管作動性物質投与による食道癌手術時の消化管吻合をより安全にするための研究	池田 佳史	外科	¥1,600,000	補委 文部科学省
「根拠に基づく診療ガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備に関する研究:患者・医療消費者の参加推進に向けて	吉田 雅博	外科	¥1,800,000	補委 厚生労働省
「分子標的薬剤の反応性診断と治療用」(乳癌に対するアロマターゼ阻害剤の効果予測遺伝子群の同定に関する研究)	池田 正	外科	¥3,500,000	補委 文部科学省
腸癌の骨髄・末梢血・リンパ節における転移形成能を有する遊離癌細胞(Isolated tumor cell, ITC)の検出とその臨床応用	飯沼 久恵	外科	¥1,400,000	補委 厚生労働省
低出生体重児の乳幼児期に及ぼす亜鉛欠乏とその対策	児玉 浩子	小児科	¥400,000	補委 成長科学協会
低出生体重児の乳幼児期における必須微量元素必要量の検討	志賀 勝秋	小児科	¥500,000	補委 森永奉仕会
敗血症の新しい治療法の開発	中村 明夫	小児科	¥900,000	補委 文部科学省
小児敗血症に対するβ2アドレナリン受容体補充療法	中村 明夫	小児科	¥3,000,000	補委 川野小児医学財団
小児疾患における抗糖脂質抗体の分析	足田 敏之	小児科	¥1,000,000	補委 文部科学省
高機能広汎性発達障害児のための社会的認知能力検査の作成と適用	酒井 裕子	小児科	¥1,200,000	補委 文部科学省
「根拠に基づく診療ガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備に関する研究:患者・医療消費者の参加推進に向けて	松下 隆	整形外科	¥1,800,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
高密度骨髄間葉系細胞および骨形成因子を用いた移植方法の開発による関節軟骨の再生	高井 信朗	整形外科	¥1,200,000	①補委 厚生労働省
重粒子線治療プロジェクト	阿部 哲士	整形外科	¥180,000	①補委 科学技術庁
Ewing's/PENET腫瘍の分化傾向と予後との関係	阿部 哲士	整形外科	¥500,000	①補委 文部科学省
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	阿部 哲士	整形外科	¥90,000	①補委 厚生労働省
同種血輸血安全性向上に伴う自己血輸血適応の再検討	脇本 信博	整形外科	¥100,000	①補委 厚生労働省
閉塞型睡眠時無呼吸症候群における体位依存症およびREM睡眠依存性について	鈴木 雅明	耳鼻咽喉科	¥600,000	①補委 文部科学省
先天性高度感音難聴児における中枢聴覚伝導路の発達に関する研究	佐野 真幸	耳鼻咽喉科	¥1,800,000	①補委 文部科学省
尋常性乾癬の病態における性ホルモンの役割及びその治療における性ホルモンの有用性	神田奈緒子	皮膚科	¥900,000	①補委 日本学術振興会
多発性嚢胞腎における分子標的治療創薬の研究	堀江 重郎	泌尿器科	¥1,400,000	①補委 日本学術振興会
男性ホルモン低下に起因する老年病の治療戦略とその機序に関する総合研究	堀江 重郎	泌尿器科	¥1,300,000	①補委 厚生労働省
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	堀江 重郎	泌尿器科	¥300,000	①補委 厚生労働省
浸潤性膀胱がんの予後改善をめざした集学的治療の研究	堀江 重郎	泌尿器科	¥400,000	①補委 厚生労働省
一卵性双生児統合失調症不一致例を用いた患者特異的Alu挿入領域の同定	南光進一郎	精神神経科	¥1,300,000	①補委 文部科学省
精神科在院患者の地域移行、定着、再入院防止のための技術開発と普及に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥1,100,000	①補委 文部科学省
統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する検討	池淵恵美	精神神経科	¥450,000	①補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
精神政策医療ネットワークによる統合失調症の治療および社会復帰支援に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥400,000	補委 文部科学省
統合失調症の病因として転移因子の役割	上野美華子	精神神経科	¥1,000,000	補委 文部科学省
統合失調症におけるレトロポゾンAluの病因的役割	赤羽晃寿	精神神経科	¥1,400,000	補委 厚生労働省
悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	藤巻高光	脳神経外科	¥500,000	補委 厚生労働省
神経膠腫の浸潤能におけるLPA産生酵素ATXの役割の解明	藤巻高光	脳神経外科	¥1,700,000	補委 文部科学省
瞳孔の対光反射により頭蓋内圧を非侵襲的に評価する工学的解析方法の開発と臨床応用	上野俊昭	脳神経外科	¥1,700,000	補委 文部科学省
機能性色素を用いた放射線インジケータによるIVR患者被ばく線量の検討	古井 滋	放射線科	¥3,100,000	補委 文部科学省
呼吸と疼痛との関連における侵害刺激受容イオンチャネルおよび遅延性起動遺伝子の関与	大島 勉	麻酔科	¥800,000	補委 文部科学省
脳梗塞時における睡眠・覚醒サイクル異常の解析 ーオレキシン動態からその機上に迫るー	福田 悟	麻酔科	¥11,600,000	補委 文部科学省
周術期医療に関する大規模データベースの構築とデータ解析	澤 智博	麻酔科	¥6,900,000	補委 文部科学省
情報工学等の連携による国民・患者のリテラシー向上に関する研究	中田 善規	麻酔科	¥24,750,000	補委 厚生労働省
症例登録を踏まえた病院共通のコンピューターシステムの開発とコストに関する研究	澤 智博	麻酔科	¥19,000,000	補委 厚生労働省
行政処分を受けた医療従事者の再教育の進め方に関する研究	澤 智博	麻酔科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
救急医療評価スタンダードとスコアリングガイドラインを利用したベンチマーキングに関する研究	坂本 哲也	救命救急センター	¥6,500,000	補委 厚生労働省
自動体外式除細動器(AED)を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究	坂本 哲也	救命救急センター	¥29,800,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
119番受信時における救急用トリアージの運用要領の作成	坂本 哲也	救命救急センター	¥6,000,000	補 ⑤委 総務省消防庁

計 72

- (注)1. 国,地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Mod Rheumatol 17:81 82, 2007.	HLA-B51 and cigarette smoking as risk factors for chronic progressive neurological manifestations in Behcet's disease.	Aramaki K	内科
Medical Education, 40: 1180-1187 (2006)	"Evaluating medical students' non-verbal communication during the objective structured clinical examination. "	Kinoshita M	内科
J. Atheroscler. Thromb. 14(1): 12-18 (2007)	"Plasmalogens in Human Serum Positively Correlate with High-Density Lipoprotein and Decrease with Aging"	Kinoshita M	内科
Int Immunol. 18(11):1575-83. 2006	Trans-basement membrane migration of human basophils: role of matrix metalloproteinase-9.	Ohta K	内科
Allergy. 61(9):1086- 96. 2006	Pharmacologic and anti-IgE treatment of allergic rhinitis ARIA update (in collaboration with GA2LEN). Allergy.	Ohta K	内科
Int Arch Allergy Immunol. 140 Suppl 1:23-7. 2006	Expression and function of toll-like receptors in human basophils.	Ohta K	内科
J Allergy Clin Immunol. 117(5):1040-6. 2006	Role of CCL21 and CCL19 in allergic inflammation in the ovalbumin-specific murine asthmatic model.	Ohta K	内科
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 290(6):L1045-51. 2006	Involvement of GATA-3-dependent Th2 lymphocyte activation in airway hyperresponsiveness.	Ohta K	内科
Respir Med. 100(3):542-50. 2006	Aminophilline suppress the release of chemical mediators in treatment of acute asthma.	Ohta K	内科
日本小児アレルギー学会 誌20(1):66-70,2006.	小児アレルギー疾患のEarly Intervention 気管支喘息 内科の立場から.	大田 健	内科
アレルギー・免疫13(10): 1440-1449,2006.	キシナホ酸サルメテロール喘息に対する吸入ステロイド薬との併用効果.	大田 健	内科
医薬ジャーナル 42(8):2144- 2153,2006	喘息コントロールテストの有用性 喘息患者を対象としたインターネット調査による.	大田 健	内科
アレルギー・免疫 13(4):39-43,2006	経口の喘息治療薬を中心とした治療法からキシナホ酸サルメテロールとプロピオン酸フルチカゾン併用療法に切り替えた場合の喘息治療目標への到達割合の検討.	大田 健	内科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
アレルギー・免疫13(4): 1440-1449,2006	気管支喘息患者に対するキシナホ酸サルメテロールとプロピオン酸フルチカゾン併用治療における喘息エピソード並びに喘息QOLに対する効果の検討(FIRST study).	大田 健	内科
アレルギー・免疫 13(4):548-554,2006	成人気管支喘息における感作アレルゲンの全国調査.	大田 健	内科
Int Arch Allergy Immunol 140 (suppl. 1): 28-34, 2006.	The role of platelet-derived growth factor receptor in eotaxin signaling of eosinophils.	Adachi T	内科
Annual Review 呼吸器: 44-50, 2006.	好酸球と呼吸器疾患.	足立哲也	内科
Medical Postgraduates 44(4):67-72,2006	Opsonic activity assessment of human intravenous immunoglobulin in preparations against <i>Candida albicans</i> .	斧 康雄	内科
Catheter Cardiovascular Intervention,Vol.68 (1):1-7,July 2006	Impact of 16-slice computed tomography in percutaneous coronary intervention of chronic total occlusions.	Yokoyama N	循環器科
Circulation,Vol.115 (1):e1-2.No abstract available,Jan 2007	Image in cardiovascular medicine.Serial assessment of liquefaction necrosis of mitral annular calcification by echocardiography and multislice computed tomography.	Yokoyama N	循環器科
Journal of Affective Disorders 90:29-35, 2006.	Prediction of major depression in Japanese adults: somatic manifestation of depression in annual health examinations.	Nakao M	心療内科
Bulletin of the World Health Organization 84:492-493, 2006.	The suicide epidemic in Japan and strategies of depression screening for its prevention.	Nakao M	心療内科
Psychiatry and Clinical Neuroscience 60:219- 225, 2006.	Somatic symptoms for predicting depression: one-year follow-up study in annual health examinations.	Nakao M	心療内科
Psychiatry and Clinical Neuroscience 60:605- 610, 2006.	Clinical application of paroxetine for tapering benzodiazepine use in non-major-depressive outpatients visiting internal medicine clinic.	Nakao M	心療内科
Public Health 120:373- 379, 2006.	A comparative study of behavioral, physical, and mental health status between term-limited and tenure-tracking employees in a population of Japanese male researchers.	Nakao M	心療内科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Journal of Gastroenterology 41:855-861, 2006.	Gastric electrical activity and cardiovascular risk factors in relation to autonomic nervous function, hormonal responses and health-related lifestyles in young men.	Nakao M	心療内科
Primary Care & Community Psychiatry 11:13-19, 2006.	Screening for major depression utilising a selected two-item questionnaire at workplace health examination.	Takeuchi T	心療内科
Internal Medicine 45:1279-1283, 2006.	Regular prescriptions for benzodiazepines: a cross-sectional study of outpatients at a university hospital.	Nomura K	心療内科
European Journal of Cancer Care 15:44-50, 2006.	Cost-effectiveness analysis of anti-fungal treatment for patients on chemotherapy.	Nomura K	心療内科
International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics 45:30-35, 2007.	Prescription of benzodiazepine in comparison with SSRI and SNRI for outpatients attending a Japanese university hospital.	Nakao M	心療内科
Neuroscience Letters 415:185-189, 2007.	Somatosensory amplification and its relationship to somatosensory, auditory, and visual evoked and event-related potentials (P300).	Nakao M	心療内科
Tohoku Journal of Experimental Medicine 212:107-113, 2007.	Impact of glucose intolerance on coronary calcified lesions evaluated using multislice computed tomography.	Nomura K	心療内科
Tohoku Journal of Experimental Medicine 212:239-246, 2007.	The long-term prescription of benzodiazepines, psychotropic agents, to the elderly at a university hospital in Japan.	Nomura K	心療内科
Therapeutic Research 27:2001-2009, 2006.	ベンゾジアゼピン系抗不安薬を長期服用している内科外来患者へのパロキセチン処方.	中尾睦宏	心療内科
心身医学 46:1037-1042, 2006.	帝京大学病院外来におけるベンゾジアゼピン系薬剤の科別処方状況.	中尾睦宏	心療内科
心身医学 47:41-47, 2007.	帝京大学病院の外来処方データベース研究:ベンゾジアゼピン系薬物長期処方の特徴.	野村恭子	心療内科
心身医学 47:103-110, 2007.	ストレス自覚度ならびに社会生活指標が腰痛・関節痛、肩こりに及ぼす影響:都道府県別データの解析.	竹内武昭	心療内科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
臨床脳波	腋窩神経鎖骨下レベルの伝導ブロックを認めた神経痛性筋萎縮症の1例	園生雅弘	神経内科
脊髄機能診断学	小脳梗塞14正中神経SEP IcP13 (lower cervical P13)成分の、局在診断におけるpitfallと有用性例の臨床的特徴の検討	園生雅弘	神経内科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 1-10	Background: Tokyo Guidelines for the Management of Acute Cholangitis and Cholecystitis.	Takada T	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.2007; 14: 83-90	Antimicrobial therapy for Acute cholecystitis: Tokyo Guideline for Management of Acute Cholangitis and Cholecystitis.	Yoshida M	外科
Hepatogastroenterology. 2006; 53:435-7	Evaluation of CT during Arterial Portography for Preoperative Diagnosis of Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Miura F	外科
J Gastrointest Surg. 2006;10:519-522	Aortic Occlusion Balloon Catheter Technique Is Useful for Uncontrollable Massive Intraabdominal Bleeding After Hepato-Pancreato-Biliary-Surgery	Miura F	外科
HPB 2006;8:208-13	Diagnosis of Pancreatic Cancer	Miura F	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 27-34	Flowchart of Diagnosis and Treatment of Acute Cholangitis and Cholecystitis – Tokyo Guidelines.	Miura F	外科
J Gastrointest Surg. 2007;11:179-186	Repeated pancreatectomy after pancreatoduodenectomy.	Miura F	外科
J Am Coll Surg.2007; 204: 720-722	Middle-Segment-Preserving Pancreatectomy	Miura F	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2006; 13(2):80-85.	Endoscopic naso-gallbladder drainage in the treatment of acute cholecystitis: alleviates inflammation and fixes operator's aim during early laparoscopic cholecystectomy.	Takada T	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 52-58	Diagnostic Criteria and Severity Assessment of Acute Cholangitis: Tokyo Guidelines.	Wada K	外科
Hepatology Research 2007; 37: 444-153	Expression of vascular endothelial- cadherin in human hepatocellular carcinoma tissues	Takada T	外科
Oncology reports 2007; 17: 667-672	Prospective study of the quantitative carcinoembryonic antigen and cytokeratin 20 mRNA detection in peritoneal washes to predict peritoneal recurrence in gastric carcinoma patients	Tamura N	外科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
W J Gastroenterology;2006 12(39): 6305-6309	Proposal of criteria to select candidates of hepatic resection for colorectal liver metastases; Comparison of our scoring system to the positive number of risk factors.	Nagashima I	外科
W J Gastroenterology;2006 12(43): 6961-6965	Proposal of a new and simple staging system of colorectal liver metastasis.	Nagashima I	外科
Surgery.2006 139(1):33-8.	Preferable operative age of choledochal dilation types to prevent patients with pancreaticobiliary maljunction from developing biliary tract carcinogenesis.	Asano T	外科
Anticancer Research 2006 26:4547-4652	Up-regulated Expression of the Uridine Phosphorylase Gene in Human Gastric Tumor is Correlates with a Favorable Prognosis	Asano T	外科
Surg Endosc. 21(8):1466-8. Epub 2007 Mar 14.	Laparoscopy-assisted hepatic lobectomy using hilar Glissonean pedicle transection.	Asano T	外科
The American Journal of Surgery 193:1-4	Relationship between right portal and biliary systems based on reclassification of the liver.	Asano T	外科
Clin Cancer Res13(2):415- 420,2007	Gene expression signature and the prediction of ulcerative colitis - associated colorectal cancer by DNA microarray.	Watanabe T	外科
Cancer Res66(20):9804- 9808,2006	Distal colorectal cancers with microsatellite instability (MSI) display distinct gene expression profiles that are different from proximal MSI cancers.	Watanabe T	外科
Cancer Res66(7):3370- 3374,2006	Prediction of sensitivity of rectal cancer cells in response to preoperative radiotherapy by DNA microarray analysis of gene expression profiles.	Watanabe T	外科
Gut56(6):863- 868,2007	Prognosis and risk factors of metastasis in colorectal carcinoids: results of a nationwide registry over 15 years .	Watanabe T	外科
Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies 15(4):253-256,2006	One-stage completely laparoscopic restorative proctocolectomy for ulcerative colitis complicated with sigmoid colon cancer--a case report.	Watanabe T	外科
Gut55(7):1051- 1052.2006	Site distribution of gastrointestinal carcinoids differs between taces.	Watanabe T	外科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Hepato-Gastroenterology 53(68):188-191,2006	Telomerase subunit immunoreactivity and recurrence in colorectal cancer.	Watanabe T	外科
Oncology Reports 15(5):1293-1298,2006	hRFI overexpressed in HCT116 cells modulates Bc1-2 family proteins when treated with 5-Fluorouracil.	Watanabe T	外科
Cancer Letters 241(2):256-262,2006	Effect of cystathionine beta-synthase variant 844ins68bp and methylenetetrahydrofolate reductase A1298C polymorphism in xenografts on 5-FU efficacy and doubling time.	Watanabe T	外科
Oncology Reports 15(6):1485-1490,2006	Chronic colitis promotes tumor development.	Watanabe T	外科
British Journal of Cancer 95(11):1562-1567,2006	Chromosome 18q deletion and Smad4 protein inactivation correlate with liver metastasis :a study matched for T- and N- classification.	Watanabe T	外科
Int. J. Oncol. 8(2):297-306, 2006	Usefulness and clinical significance of quantitative real-time RT-PCR to detect isolated tumor cells in the peripheral blood and tumor drainage blood of patients with colorectal cancer.	linuma H	外科
J Immunol. 176(6):3461-3469, 2006	Superior protective and therapeutic effects of IL-12 and IL-18 gene-transduced dendritic neuroblastoma fusion cells on liver metastasis of murine neuroblastoma.	linuma H	外科
J. Exp. Clin. Cancer Res. 25(3):339-349, 2006	Effect of immunotherapy and spleen preservation on immunological function in patients with gastric cancer.	linuma H	外科
Oncol Reports 17:667-672, 2007	Prospective study of the quantitative carcinoembryonic antigen and cytokeratin 20 mRNA detection in peripheral washes to predict peritoneal recurrence in gastric carcinoma patients.	linuma H	外科
Fertil.Steril	Prompt diagnosis of ectopic pregnancy with the human chorionic gonadotropin test using exuded extract from endometrial curettings.	Ryo,E	産婦人科
J Reprod Med	Radiofrequency ablation for cystic adenomyosis, a case report.	Ryo,E	産婦人科

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Mod Rheumatol 17:81 82, 2007.	HLA-B51 and cigarette smoking as risk factors for chronic progressive neurological manifestations in Behcet's disease.	Aramaki K	内科
Medical Education, 40: 1180-1187 (2006)	"Evaluating medical students' non-verbal communication during the objective structured clinical examination. "	Kinoshita M	内科
J. Atheroscler. Thromb. 14(1): 12-18 (2007)	"Plasmalogens in Human Serum Positively Correlate with High-Density Lipoprotein and Decrease with Aging"	Kinoshita M	内科
Int Immunol. 18(11):1575-83. 2006	Trans-basement membrane migration of human basophils: role of matrix metalloproteinase-9.	Ohta K	内科
Allergy. 61(9):1086- 96. 2006	Pharmacologic and anti-IgE treatment of allergic rhinitis ARIA update (in collaboration with GA2LEN). Allergy.	Ohta K	内科
Int Arch Allergy Immunol. 140 Suppl 1:23-7. 2006	Expression and function of toll-like receptors in human basophils.	Ohta K	内科
J Allergy Clin Immunol. 117(5):1040-6. 2006	Role of CCL21 and CCL19 in allergic inflammation in the ovalbumin-specific murine asthmatic model.	Ohta K	内科
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 290(6):L1045-51. 2006	Involvement of GATA-3-dependent Th2 lymphocyte activation in airway hyperresponsiveness.	Ohta K	内科
Respir Med. 100(3):542-50. 2006	Aminophilline suppress the release of chemical mediators in treatment of acute asthma.	Ohta K	内科
日本小児アレルギー学会 誌20(1):66-70,2006.	小児アレルギー疾患のEarly Intervention 気管支喘息 内科の立場から.	大田 健	内科
アレルギー・免疫13(10): 1440-1449,2006.	キシナホ酸サルメテロール喘息に対する吸入ステロイド薬との併用効果.	大田 健	内科
医薬ジャーナル 42(8):2144- 2153,2006	喘息コントロールテストの有用性 喘息患者を対象としたインターネット調査による.	大田 健	内科
アレルギー・免疫 13(4):39-43,2006	経口の喘息治療薬を中心とした治療法からキシナホ酸サルメテロールとプロピオン酸フルチカゾン併用療法に切り替えた場合の喘息治療目標への到達割合の検討.	大田 健	内科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
アレルギー・免疫13(4): 1440-1449,2006	気管支喘息患者に対するキシナホ酸サルメテロールとプロピオン酸フルチカゾン併用治療における喘息エピソード並びに喘息QOLに対する効果の検討(FIRST study).	大田 健	内科
アレルギー・免疫 13(4):548-554,2006	成人気管支喘息における感作アレルゲンの全国調査.	大田 健	内科
Int Arch Allergy Immunol 140 (suppl. 1): 28-34, 2006.	The role of platelet-derived growth factor receptor in eotaxin signaling of eosinophils.	Adachi T	内科
Annual Review 呼吸器: 44-50, 2006.	好酸球と呼吸器疾患.	足立哲也	内科
Medical Postgraduates 44(4):67-72,2006	Opsonic activity assessment of human intravenous immunoglobulin in preparations against <i>Candida albicans</i> .	斧 康雄	内科
Catheter Cardiovascular Intervention,Vol.68 (1): 1-7,July 2006	Impact of 16-slice computed tomography in percutaneous coronary intervention of chronic total occlusions.	Yokoyama N	循環器科
Circulation,Vol.115 (1):e1-2.No abstract available,Jan 2007	Image in cardiovascular medicine.Serial assessment of liquefaction necrosis of mitral annular calcification by echocardiography and multislice computed tomography.	Yokoyama N	循環器科
Journal of Affective Disorders 90:29-35, 2006.	Prediction of major depression in Japanese adults: somatic manifestation of depression in annual health examinations.	Nakao M	心療内科
Bulletin of the World Health Organization 84:492-493, 2006.	The suicide epidemic in Japan and strategies of depression screening for its prevention.	Nakao M	心療内科
Psychiatry and Clinical Neuroscience 60:219- 225, 2006.	Somatic symptoms for predicting depression: one-year follow-up study in annual health examinations.	Nakao M	心療内科
Psychiatry and Clinical Neuroscience 60:605- 610, 2006.	Clinical application of paroxetine for tapering benzodiazepine use in non-major-depressive outpatients visiting internal medicine clinic.	Nakao M	心療内科
Public Health 120:373- 379, 2006.	A comparative study of behavioral, physical, and mental health status between term-limited and tenure-tracking employees in a population of Japanese male researchers.	Nakao M	心療内科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Journal of Gastroenterology 41:855-861, 2006.	Gastric electrical activity and cardiovascular risk factors in relation to autonomic nervous function, hormonal responses and health-related lifestyles in young men.	Nakao M	心療内科
Primary Care & Community Psychiatry 11:13-19, 2006.	Screening for major depression utilising a selected two-item questionnaire at workplace health examination.	Takeuchi T	心療内科
Internal Medicine 45:1279-1283, 2006.	Regular prescriptions for benzodiazepines: a cross-sectional study of outpatients at a university hospital.	Nomura K	心療内科
European Journal of Cancer Care 15:44-50, 2006.	Cost-effectiveness analysis of anti-fungal treatment for patients on chemotherapy.	Nomura K	心療内科
International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics 45:30-35, 2007.	Prescription of benzodiazepine in comparison with SSRI and SNRI for outpatients attending a Japanese university hospital.	Nakao M	心療内科
Neuroscience Letters 415:185-189, 2007.	Somatosensory amplification and its relationship to somatosensory, auditory, and visual evoked and event-related potentials (P300).	Nakao M	心療内科
Tohoku Journal of Experimental Medicine 212:107-113, 2007.	Impact of glucose intolerance on coronary calcified lesions evaluated using multislice computed tomography.	Nomura K	心療内科
Tohoku Journal of Experimental Medicine 212:239-246, 2007.	The long-term prescription of benzodiazepines, psychotropic agents, to the elderly at a university hospital in Japan.	Nomura K	心療内科
Therapeutic Research 27:2001-2009, 2006.	ベンゾジアゼピン系抗不安薬を長期服用している内科外来患者へのパロキセチン処方.	中尾睦宏	心療内科
心身医学 46:1037-1042, 2006.	帝京大学病院外来におけるベンゾジアゼピン系薬剤の科別処方状況.	中尾睦宏	心療内科
心身医学 47:41-47, 2007.	帝京大学病院の外来処方データベース研究:ベンゾジアゼピン系薬物長期処方の特徴.	野村恭子	心療内科
心身医学 47:103-110, 2007.	ストレス自覚度ならびに社会生活指標が腰痛・関節痛、肩こりに及ぼす影響:都道府県別データの解析.	竹内武昭	心療内科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
臨床脳波	腋窩神経鎖骨下レベルの伝導ブロックを認めた神経痛性筋萎縮症の1例	園生雅弘	神経内科
脊髄機能診断学	小脳梗塞14正中神経SEP Icp13 (lower cervical P13)成分の、局在診断におけるpitfallと有用性例の臨床的特徴の検討	園生雅弘	神経内科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 1-10	Background: Tokyo Guidelines for the Management of Acute Cholangitis and Cholecystitis.	Takada T	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.2007; 14: 83-90	Antimicrobial therapy for Acute cholecystitis:Tokyo Guideline for Management of Acute Cholangitis and Cholecystitis.	Yoshida M	外科
Hepatogastroenterology. 2006; 53:435-7	Evaluation of CT during Arterial Portography for Preoperative Diagnosis of Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Miura F	外科
J Gastrointest Surg. 2006;10:519-522	Aortic Occlusion Baloon Catheter Technique Is Useful for Uncontrollable Massive Intraabdominal Bleeding After Hepato-Pancreato-Biliary-Surgery	Miura F	外科
HPB 2006;8:208-13	Diagnosis of Pancreatic Cancer	Miura F	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 27-34	Flowchart of Diagnosis and Treatment of Acute Cholangitis and Cholecystitis – Tokyo Guidelines.	Miura F	外科
J Gastrointest Surg. 2007;11:179-186	Repeated pancreatectomy after pancreatoduodenectomy.	Miura F	外科
J Am Coll Surg.2007; 204: 720-722	Middle-Segment-Preserving Pancreatectomy	Miura F	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2006; 13(2):80-85.	Endoscopic naso-gallbladder drainage in the treatment of acute cholecystitis: alleviates inflammation and fixes operator's aim during early laparoscopic cholecystectomy.	Takada T	外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007; 14: 52-58	Diagnostic Criteria and Severity Assessment of Acute Cholangitis: Tokyo Guidelines.	Wada K	外科
Hepatology Research 2007; 37: 444-153	Expression of vascular endothelial- cadherin in human hepatocellular carcinoma tissues	Takada T	外科
Oncology reports 2007; 17: 667-672	Prospective study of the quantitative carcinoembryonic antigen and cytokeratin 20 mRNA detection in peritoneal washes to predict peritoneal recurrence in gastric carcinoma patients	Tamura N	外科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
W J Gastroenterology;2006 12(39): 6305-6309	Proposal of criteria to select candidates of hepatic resection for colorectal liver metastases; Comparison of our scoring system to the positive number of risk factors.	Nagashima I	外科
W J Gastroenterology;2006 12(43): 6961-6965	Proposal of a new and simple staging system of colorectal liver metastasis.	Nagashima I	外科
Surgery.2006 139(1):33-8.	Preferable operative age of choledochal dilation types to prevent patients with pancreaticobiliary maljunction from developing biliary tract carcinogenesis.	Asano T	外科
Anticancer Research 2006 26:4547-4652	Up-regulated Expression of the Uridine Phosphorylase Gene in Human Gastric Tumor is Correlates with a Favorable Prognosis	Asano T	外科
Surg Endosc. 21(8):1466-8. Epub 2007 Mar 14.	Laparoscopy-assisted hepatic lobectomy using hilar Glissonean pedicle transection.	Asano T	外科
The American Journal of Surgery 193:1-4	Relationship between right portal and biliary systems based on reclassification of the liver.	Asano T	外科
Clin Cancer Res13(2):415- 420,2007	Gene expression signature and the prediction of ulcerative colitis - associated colorectal cancer by DNA microarray.	Watanabe T	外科
Cancer Res66(20):9804- 9808,2006	Distal colorectal cancers with microsatellite instability (MSI) display distinct gene expression profiles that are different from proximal MSI cancers.	Watanabe T	外科
Cancer Res66(7):3370- 3374,2006	Prediction of sensitivity of rectal cancer cells in response to preoperative radiotherapy by DNA microarray analysis of gene expression profiles.	Watanabe T	外科
Gut56(6):863- 868,2007	Prognosis and risk factors of metastasis in colorectal carcinoids: results of a nationwide registry over 15 years .	Watanabe T	外科
Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies 15(4):253-256,2006	One-stage completely laparoscopic restorative proctocolectomy for ulcerative colitis complicated with sigmoid colon cancer--a case report.	Watanabe T	外科
Gut55(7):1051- 1052.2006	Site distribution of gastrointestinal carcinoids differs between taces.	Watanabe T	外科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Hepato-Gastroenterology 53(68):188-191,2006	Telomerase subunit immunoreactivity and recurrence in colorectal cancer.	Watanabe T	外科
Oncology Reports 15(5):1293-1298,2006	hRFI overexpressed in HCT116 cells modulates Bc1-2 family proteins when treated with 5-Fluorouracil.	Watanabe T	外科
Cancer Letters 241(2):256-262,2006	Effect of cystathionine beta-synthase variant 844ins68bp and methylenetetrahydrofolate reductase A1298C polymorphism in xenobrafts on 5-FU efficacy and doubling time.	Watanabe T	外科
Oncology Reports 15(6):1485-1490,2006	Chronic colitis promotes tumor development.	Watanabe T	外科
British Journal of Cancer 95(11):1562-1567,2006	Chromosome 18q deletion and Smad4 protein inactivation correlate with liver metastasis :a study matched for T- and N- classification.	Watanabe T	外科
Int. J. Oncol. 8(2):297-306, 2006	Usefulness and clinical significance of quantitative real-time RT-PCR to detect isolated tumor cells in the peripheral blood and tumor drainage blood of patients with colorectal cancer.	linuma H	外科
J Immunol. 176(6):3461-3469, 2006	Superior protective and therapeutic effects of IL-12 and IL-18 gene-transduced dendritic neuroblastoma fusion cells on liver metastasis of murine neuroblastoma.	linuma H	外科
J. Exp. Clin. Cancer Res. 25(3):339-349, 2006	Effect of immunotherapy and spleen preservation on immunological function in patients with gastric cancer.	linuma H	外科
Oncol Reports 17:667-672, 2007	Prospective study of the quantitative carcinoembryonic antigen and cytokeratin 20 mRNA detection in peripheral washes to predict peritoneal recurrence in gastric carcinoma patients.	linuma H	外科
Fertil.Steril	Prompt diagnosis of ectopic pregnancy with the human chorionic gonadotropin test using exuded extract from endometrial curettings.	Ryo,E	産婦人科
J Reprod Med	Radiofrequency ablation for cystic adenomyosis, a case report.	Ryo,E	産婦人科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Int J Gynecol Cancer	Uterine metastasis from hepatocellular carcinoma: a case report.	Ryo,E	産婦人科
日本婦人科腫瘍学会雑誌	巨大腫瘤形成型の子宮頸癌の治療について	竹下 茂樹	産婦人科
Brain Dev.	The first reported case of Menkes disease caused by an Alu insertion mutation	Kodama H	小児科
日本小児栄養紹介肝臓学会雑誌	治療開始後9年間肝機能が正常化せずに脂肪肝炎像を呈するWilson病の17歳肥満男児	児玉浩子	小児科
日本先天代謝異常学会誌	日本のMenkes病に関するTwo-source capture recapture methodを用いた発症率の検討	児玉浩子	小児科
小児科臨床別冊	感染性心内膜炎を契機に左冠動脈右房ろうを発見された7歳女児例	脇田 傑	小児科
Progress in Medicine	成長ホルモン治療のコンプライアンスの検討	加賀文彩	小児科
Pediatr. Res.	Renal effects of b2-adrenoceptor agonist and clinical analysis in children.	Nakamura A	小児科
Pediatr. Nephrol	Renal hypouricemia in school-aged children: screening of serum uric acid level before physical training	Nakamura A	小児科
J Orthop Sci 11:254-258,2006	Method to reduce variations of inclination angle of the acetabular component during mini-incision hip arthroplasty	Nakamura S	整形外科
MEDICAL REHABILITATION69:22-27	顔面頸部熱傷	松井恒太郎 平林慎一	形成外科
実践 救急医療135:287-288	凍傷	松井恒太郎 平林慎一	形成外科
日本形成外科学会誌26(6):365-370	頬骨正中哆開創に対する陰圧閉鎖療法の検討	江口 智明	形成外科
形成外科49(11):1187-1191	術式に基づいた新しい分類の試み	天方将人 平林慎一	形成外科
日本形成外科学会誌26:791-794	Eccrine Angiomatous Hamartomaの1例	草野貴子 平林慎一	形成外科
形成外科49(増)	四肢 損傷部位・形態からみた処置法 特殊型損傷 高圧注入損傷	天方将人 山岡尚代	形成外科
形成外科49(増)	四肢 複合性局所疼痛症候群	江口智明	形成外科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」	中枢性疾患による口腔機能障害	江口智明	形成外科
Int.J.Oral Maxillofac. Surg. (35)594-597	A2-stage procedure combining maxillary advancement by distraction technique with mandibular setback surgery in patients with cleft lip and palate	Eguchi.T	形成外科
Asian J Oral Maxillofac Surg. :18(1)46-50	Simplified Nasoalveolar Moulding Technique for Treatment of Infants with Cleft Lip and Palate	Eguchi.T	形成外科
日本形成外科学会誌27(7):514-518	顔面多発骨折、軟口蓋挫創による外傷性鼻咽閉鎖機能不全に対し咽頭弁形成術を行なった1例	松井恒太郎 江口智明	形成外科
形成外科50(5):543-549	クルーゾン症候群に対する Le Fort III midface advancement	平林慎一	形成外科
形成外科50(7):796-774	手掌皮弁による指尖部再建	南 和彦 平林慎一	形成外科
日本頭蓋顎顔面外科学会誌23(1)32-38	顔面びまん性神経線維腫が Malignant Transformationをきたしたレックリングハウゼン病の1例	天方将人 平林慎一	形成外科
J Biomed Mater Res A 2006 Jul;78(1):1-11	Cartilage tissue engineering using human auricular chondrocytes embedded in different hydrogel materials.	Yamaoka H	形成外科
医療薬学32(7) 648-656	広範囲な口腔内疾患に適応可能なメフェナム酸鎮痛スプレーの調整と臨床評価	平林慎一 山岡桂子	形成外科
眼科48:179-186, 2006.	特集・薬物療法の論点 眼圧下降薬	鈴木康之	眼科
Eye Surgeryバトルロイヤル1,	緑内障手術	鈴木康之	眼科
眼科プラクティス11 緑内障診療の進めかた40-41,2006	疫学-諸外国との比較-	鈴木康之	眼科
老年医44,1237-1239, 2006	高齢者に多い眼疾患-診断と治療 予防-3)緑内障,	鈴木康之	眼科
Ophthalmology113	Risk factors for open-angle glaucoma in a Japanese population,	Suzuki Y	眼科
眼科プラクティス 8 いまずぐ役立つ眼病理	挙筋群の検体の扱い方	根本裕次	眼科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
眼科プラクティス8 いますぐ役立つ眼病理	眼輪筋,眼瞼挙筋腱膜,Müller筋の正常組織	根本裕次	眼科
眼科プラクティス9 いますぐ役立つ眼病理	眼瞼下垂 先天単純 VS 動眼神経麻痺 VS ミトコンドリア脳筋症 VS 老人性	根本裕次	眼科
形成外科49	眼外傷における眼科的知識,顔面・四肢外傷治療のABC	根本裕次	眼科
眼臨99,190-193,2006	遠視性不同視弱視における中心窩網膜厚と隔凹度の検討	佐野 海	眼科
日本視能訓練士協会誌35, 107-112,2006	長期弱視訓練により心因性視覚障害をきたした1例	兵藤 維	眼科
Acta Otolaryngol. 2007 Mar 9;;1-6	Changes in the audiograms of a nasopharyngeal cancer patient during the course of treatment: a temporal bone histopathological study.	Tsuzuku T	耳鼻咽喉科
Equilibrium Research(0385- 5716)65巻3号	Video-oculographyによるメニエール病症例の電気性眼振の解析	都筑俊寛	耳鼻咽喉科
Otol Neurotol. 2007 Jan;28(1):44-7.	Influence of chronic middle ear diseases on gustatory function:an electrogustometric study.	Sano M	耳鼻咽喉科
音声言語医学47(3): 306-313,2006	補聴器装用児における乳幼児期の言語訓練の成果と問題点	斎藤 宏	耳鼻咽喉科
Visual Dermatology 5 (2):116-121, 2006	エビデンスに基づいたニキビ治療にはどのようなものがあるか	渡辺晋一	皮膚科
化学療法の領域 22 (2): 223-229, 2006	皮膚科領域(最近の伝染性膿痂疹とMRSA)	渡辺晋一	皮膚科
皮膚臨床 48 (2): 213- 216, 2006	脂腺母斑に続発したTrichoblastomaの1例	根本いずみ	皮膚科
Med Mycol 44 (2): 127- 132, 2006.	Capsule-associated genes of serotypes of Cryptococcus neoformans,especially serotype AD.	Watanabe S	皮膚科
香粧会誌 30 (1):10- 17, 2006	美容皮膚・形成外科ではどのような治療が行われているか	渡辺晋一	皮膚科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
新薬と臨床、55 (5):573-580, 2006	ざ瘡の治療における抗菌薬の選択基準	渡辺晋一	皮膚科
Clinic magazine: 2006年6月号: 48-51	浅在性白癬の薬物療法—外用療法のポイント—	渡辺晋一	皮膚科
西日皮膚 68 (3): 293-298, 2006	マグロリグナン?(5,5-ジプロピル-ピフェニル-2,2'-ジオール)配合製剤の肝斑など色素沈着症に対する改善効果	渡辺晋一	皮膚科
肥満と糖尿病 5 (4): 572-573, 2006	肥満や糖尿病患者の水虫は?	渡辺晋一	皮膚科
MB Derma 115 (7): 1-8, 2006	レーザー治療のメカニズム	渡辺晋一	皮膚科
Mycoses 49 (3): 236-241, 2006	A comparative clinical study between 2 weeks of Luliconazole 1% cream treatment and 4 weeks of Bifonazole 1% cream treatment for Tinea pedis.	Watanabe S	皮膚科
Skin Pharmacol Physiol 19: 275-282, 2006	Acceleration of de novo cholesterol synthesis in the epidermis influences desquamation of the stratum corneum in aged mice.	Watanabe S	皮膚科
Dermatol Surg 32 (6): 785-789, 2006	Condition known as 'dark rings under the eyes' in the Japanese population is a kind of dermal melanocytosis which can be successfully treated by Q-switched ruby laser.	Watanabe S	皮膚科
診療と新薬、43 (9): 912-917, 2006	新規衣料用柔軟仕上剤および洗剤の乾燥肌等に対する使用成績	渡辺晋一	皮膚科
Medicina 43 (10): 1686-1688, 2006	糖尿病を疑うきっかけになる皮膚真菌症	渡辺晋一	皮膚科
medicina2006増刊号、43 (12): 603-605	皮膚真菌症	渡辺晋一	皮膚科
Mycoses 50: 35-40, 2006	Dose-finding comparative study of 2 weeks of luliconazole cream treatment for tinea pedis - comparison between three groups (1%, 0.5%, 0.1%) by a multi-center randomised double-blind study.	Watanabe S	皮膚科
日皮学会誌 116 (13): 2007-2010, 2006	“しみ”に対する治療戦略	渡辺晋一	皮膚科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
アレルギー科 21(4):361-367, 2006	新しい抗真菌薬の抗炎症作用とその機序	神田奈緒子	皮膚科
Visual Dermatology 7(5):670-671, 2006	全身性エリテマトーデス	神田奈緒子	皮膚科
Biochem Pharmacol 72(4):463-473, 2006	Suppressive effects of antimycotics on tumor necrosis factor- α -induced CCL27, CCL2, and CCL5 production in human keratinocytes.	神田奈緒子	皮膚科
皮膚臨床 48 (6):795-799, 2006	成人Still病の1例	澁谷修一郎	皮膚科
MB Derma, 121: 61-68, 2006	皮膚良性腫瘍の診断に役立つ免疫組織化学的検査.	大西誉光	皮膚科
Nephrology	ADPKD	Horie S	泌尿器科
Differentiation.	Lack of a laterality phenotype in Pkd1 knock-out embryos correlates with absence of polycystin-1 in nodal cilia.	Horie S	泌尿器科
Vaccine	Induction of Gag-specific T-cell responses by therapeutic immunization with a Gag-expressing Sendai virus vector in macaques chronically infected with simian-human immunodeficiency virus.	Horie S	泌尿器科
J Clin Invest	Pkd1 regulates immortalized proliferation of renal tubular epithelial cells through p53 induction and JNK activation.	Horie S	泌尿器科
Nephron Clin Pract.	Calcium channel blocker versus angiotensin II receptor blocker in autosomal dominant polycystic kidney disease.	Horie S	泌尿器科
前立腺癌の非観血的治療	温度を利用した新規治療—HIFUと凍結治療—	武藤 智	泌尿器科
Eur Urol	The Prognostic Value of E-Cadherin, alpha-, beta-, and gamma-Catenin in Urothelial Cancer of the Upper Urinary Tract.	Muto S Horie S	泌尿器科
Fertil Steril	Age as a limiting factor for successful sperm retrieval in patients with nonmosaic Klinefelter's syndrome.	Okada H Horie S	泌尿器科
Fertil Steril.	Four pregnancies in nonmosaic Klinefelter's syndrome using cryopreserved-thawed testicular spermatozoa.	Okada H Muto S	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者	所属部門
J Natl Cancer Inst.	Effect of Smad7 expression on metastasis of mouse mammary carcinoma JygMC(A) cells. Maruyama O, Horie S.	Maruyama O Horie S	泌尿器科
泌尿器外来	男性更年期外来の治療と症状スコア	丸山 修	泌尿器科
J.neurosurg. 103 (12): 1092-94.2006	Pituitary cyst presenting with hyponatremia and increased secretion of brein natriuretic peptide.	Son	脳神経外科
Neuroscience Letters 402:222-226	Intracerebroventricular delivery of dominant negative prion protein in a mouse model of iatrogenic Creutzfeldt-Jakob disease after dura graft transplantation	Furuya K	脳神経外科
癌と化学療法33(9):1279-1285	初回再発の退形成性星細胞腫患者に対する Temozolomide 単剤投与の有効性および安全性の検討。	藤巻高光	脳神経外科
日本放射線腫瘍学会誌 (1040-9564)18巻3号 Page141-145(2006.09)	耳垂ケロイドの術後照射	横川徳造 白井辰夫	放射線科
Circ J. 2007 Feb;71(2):229-33	Factors affecting the patient's skin dose during percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion.	Suzuki S Furui S	放射線科
Radiat Med. 2006 Nov;24(9):631-4. Epub 2006 Nov 24.	Brown tumor with fluid-fluid levels in a patient with primary hyperparathyroidism: radiological findings.	Takeshita T Takeshita K	放射線科
Intern Med. . 2006;45(15):933-4. Epub 2006 Sep 1. No abstract available.	Ruptured pheochromocytoma presenting with acute abdomen and pulmonary edema	Takeshita T Takeshita K	放射線科
Invest Radiol. 2006 Jun;41(6):510-5.	Accuracy of attenuation measurement of vascular wall in vitro on computed tomography angiography: Effect of wall thickness, density of contrast medium, and measurement point.	Suzuki S Furui S	放射線科
Radiology. 2006 May;239(2):541-6. Epub 2006 Mar 28.	Radiosensitive functional dye: clinical application for estimation of patient skin dose.	Suzuki S Furui S	放射線科
頭頸部癌 32-4	Stage I・II 舌扁平上皮癌における組織内照射後の頸部後発リンパ節転移に関する検討	田邊陽子	歯科口腔外科

小計 12

雑誌名	題名	発表者	所属部門
Journal of Hard Tissue Biology	Dental Pulp Changes Observed on a patient on Long-term Corticosteroids.	Chigono Y	歯科口腔外科
Chudoku Kenkyu	Guidelines for the treatment of acute chemical poisoning-11-symptomatic therapy 4.Management of circulation for drug overdose and poisoning	Sakamoto T	救命救急センター
Neurol Med Chir(Tokyo)	Final report of the Japan Neurotrauma Data Bank project 1998-2001: 1,002 cases of traumatic brain injury.	Sakamoto T	救命救急センター
Hum Gene Ther	Keratinocyte growth factor gene transduction ameliorates acute lung injury and mortality in mice.	Morimura N	救命救急センター
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	High tidal volume ventilation induces lung injury after hepatic ischemia-reperfusion.	Morimura N	救命救急センター
Neurosurgical Emergency	重症頭部外傷に対する急性期治療の現状 頭部外傷データベースの分析から	坂本哲也	救命救急センター
日本救急医学会雑誌	救急医療を考える 明るい未来を拓くために今 外傷外科手術の標準化を目指したトレーニングコースの設立に向けて	内田靖之	救命救急センター
EBMジャーナル	BLSをめぐって 呼吸の確認は、正常な呼吸(普段どおりの息)をしているかみる	金子一郎	救命救急センター
肝臓・胆臓・膵臓に作用する薬物95-117	シリーズ・病態生理と薬物療法 肝胆膵疾患の薬物治療	山岡 桂子 山岡 尚世	薬剤部
薬事新報2416	眼科疾患の薬物療法(18) ③眼に作用する薬物	山岡 桂子	薬剤部
薬事新報2429	眼科疾患の薬物療法(18) ④眼に作用する薬物	山岡 桂子	薬剤部
薬事新報2454	眼科疾患の薬物療法(18) ⑤眼に作用する薬物	山岡 桂子	薬剤部
医学と薬学58	全自動化学発光酵素免疫システム「ルミパルス Presto II」によるHCV抗体測定試薬の基礎的検討	黒田 雅顕 会津美砂	中央検査部
日本臨床微生物学雑誌17	Candida glabrata による結構播種性肺 Candida 症の1例	川上小夜子	中央検査部

小計 14

合計173

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 三上 真弘
管理担当者氏名	医事課長代行 飯塚裕之, 医療情報課長補佐 富澤英文, 総務課長 和久正志

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		総務課 医療情報課 各病棟 各科診療科	診療録等は患者別 その他については年度別
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	各科診療科	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	〃	
	高度の医療の研修の実績	〃	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病診連携室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者さま相談室	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	総務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	富澤英文
閲覧担当者氏名	富澤英文
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	52.0%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算	A : 紹介患者の数	14,850 人	
出	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,254 人	
根	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	8,657 人	
拠	D : 初診の患者の数	52,799 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第
まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (2名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
<p>・所属職員：専任(1)名 兼任(14)名</p> <p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)安全管理対策の推進 2)安全管理委員会の開催 3)安全管理担当者連絡委員会を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底 4)医療事故発生防止のための情報収集と教育 5)院内各部署への立ち入り検査と関係書類の調査 6)安全管理に関わる関係部署との連絡調整 7)医療事故発生防止のための対策立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査 8)発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案 9)発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導 10)発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導 11)発生した医療事故の原因究明の確認および指導 12)発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底 13)安全管理委員会、安全管理部会の資料および議事録の作成並びに保存等の庶務に関すること 	
④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) ・ 無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)安全管理に関する基本的な考え方 2)安全管理委員会その他の組織に関する基本情報 3)安全管理のための職員研修に関する基本方針 4)安全確保を目的とした、事故報告書に基づく改善策の立案、実施に関する基本方針 5)医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6)病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7)患者からの相談への対応に関する基本方針 8)安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針 	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)安全管理対策の推進 2)医療事故発生防止のための情報収集と教育 3)院内各部署への立ち入り検査と関係書類の調査 4)安全管理に係わる関係部署との連絡調整 5)医療事故発生防止のための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査 6)発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案 7)発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導 8)発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導 9)発生した医療事故の原因究明の確認および指導 10)発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底 11)安全管理委員会の資料および議事録の作成および保存等の庶務に関すること 	

医療に係わる安全管理のための職員研修(平成18年度)

研修区分	期日	テーマ
新入職員オリエンテーション	平成18年4月1日(土) 平成18年4月3日(月)	安全管理体制について 放射線に関する知識と安全対策について 院内感染対策について
研修医オリエンテーション	平成18年4月1日(土) ～ 平成18年4月28日(金)	医療事故防止について 放射線の人体に与える影響 放射線の安全取り扱い総論 放射線の安全取り扱い各論 放射線障害防止に関する法令及び放射線障害予防規定 安全管理体制と医療事故防止について 院内感染対策について 医療事故防止のための取り組み
院内感染予防講習会第1回	平成18年6月2日(金)	流行性角結膜炎対策 小児科の感染対策 MRSAの減少に成功 MRSA対策 治療法選択に役立つグラム染色
医療事故防止に関する講習会 第1回	平成18年7月26日(水)	医療事故対策について
医療事故防止に関する講習会 (第1回ビデオ研修)	平成18年10月20日(金) 平成18年10月25日(水)	医療事故対策について
医療事故防止に関する講習会 第2回	平成19年2月15日(木)	医療訴訟から見た医療行為
医療事故防止に関する講習会 (第2回ビデオ研修)	平成19年2月27日(火) 平成19年3月2日(金)	医療訴訟から見た医療行為
院内感染予防講習会 第2回	平成18年12月22日(金) 平成18年12月27日(水)	ノロウィルス感染対策 インフルエンザ感染対策

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・研修の主な内容: 別紙</p>	
<p>⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p>	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/>) ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容: ○安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行ない、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する</p>	